

## 卷頭言

## 平成5年を迎えて

日本熱測定学会会長  
大阪大学理学部教授 菅 宏



平成5年の新春を迎え、謹んで会員の皆様方のご健祥と研究のご発展をお祈り申し上げます。今年は酉年、一説によりますと、古代中国では酉は就(成就)の意味とか、八月に黍が成熟し、それを原料として酎酒の醸造にとりかかれるという意味だそうです。皆様方にとりまして、今年こそその目標が成就するよう、お祈りする次第です。

一昨年来、学会運営の基盤となるべき財政再建問題で数多くの議論を重ねて参りました。諸般の事情から会費値上げは避けて通れないと判断し、大袈裟な表現をすると苦渋の決断を迫られました。幸いにも、幹事会原案は昨年の総会において満場一致でご承認頂きましたことは、偏えに皆様方のご理解とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。勿論、幹事会としましても安易な手段だけでは済まず、平行して会員増強活動に力を入れております。また、ご要望の多かった会誌の充実についても、編集委員会を中心となって新企画が検討されておりますので、ご期待下さい。

この数年間、世界は激動に揺れております。日本とて例外ではなく、政治や経済はさておきとして、我々の身近かな問題として大学改革の波で大きく揺らいでおります。大学設置基準の改正で、一般および専門教育の科目区分が廃止されたことは、戦後の大学改革に対する問いかけとして受け止められます。既に多くの大学で、教養部の改廃を含む学部教育の再編成や、大学院の充実・強化の議論が進められております。学生数や留学生の増加に伴って研究室が手狭になり、基準面積の見直しを求める声も次第に大きくなっています。研究費の悪化に伴う危機感から、センター・オブ・エクセレンスという耳なれない言葉が声高に語られています。

戦後の新制大学の発足は教育の民主化、機会均等の見地から高く評価される一方で、あまりに一律的な平等化、画一化に対する反省の声も聞かれます。大学改革は、取りも直さず大学当事者の意識改革の問題でもあり、改革の波は当分続くものと考えられます。また、伝統的な大学の理念

を受け継いだ旧制大学で学んだ教授陣が、定年を迎えて全国の国立大学から去りつつある時期でもあります。新しい波の行方を、期待をもって見つめたいと思います。

昨年は、幸運にもスペイン熱測定グループの実態にふれる機会に恵まれました。スペイン王立化学会は2年に一度の連合シンポジウムを開きますが、1992年度のMalagaでの会合にご招待頂きました。王立化学会の一部門に熱測定グループが参加したのです。人数も未だ30名ぐらいと思いますが、大変活気に溢れておりました。ECの中でスペインのGNPは一番とか、バルセロナオリンピックとセビリヤ万博を同時開催したりで、いろんな意味で活気に満ちています。一昨年ご招待頂いたイタリア熱測定学会、その前年のフランス熱測定学会、偶然にも三つの国は地続きでした。欧州における熱測定分野の新しい波と云うべきでしょう。

この三つの中では、やはりLavoisier以来の伝統をもつフランスの組織が最もしっかりしていました。ポーランド・チェコとの三国合同シンポが今年9月に計画されていますし、二度目のIUPAC化学熱力学国際会議を1994年に招致することにも成功しています。今回はClermont-FerrandのGrolier教授が中心となって、市の援助のもと新設の国際会議場で行われるそうです。盛会になるものと期待されます。

1994年と云えば、第3回日中合同熱測定シンポジウムの年でもあります。昨年、第6回中国熱測定討論会が鄭州で行われた際、上記シンポジウムの中国側責任者となられた嚴文興教授から、計画書の書面が手渡されました。会告欄にも載せましたが、今回はInternational and the Third Sino-Japanese Joint Symposium on Thermal Measurementsとしたいとのことです。もともと日中二国を軸として枠の拡大を願ったのは日本側でもあり、この名称はその希望にぴったりでした。昨年のICTAC(Hatfield)に出席された吉田前庶務幹事のお話では、台湾や東南アジアの科学者で、日中合同シンポに興味をもつ人が多く、情報を欲しがっているとのことです。アジアを土台とした新しい波が起っても良い時機かと思えます。

どの民族も独自の言語をもち、それによって過去を記録し、現在を捉え、未来を予測するなど、思考の体系化が可能になります。裏返していえば、言語の構造や限界がその民族の思考や性格に影響を与えることは避けえないことです。科学に国境はなく、共通の術語や単位で表現しようとはいっても、概念や認識の展開にはそれぞれの言語のもつ個性が滲み出るとは必然と思われます。EC統合が目指すように、アジア各民族の言語体系から生まれる個性的概念を寄せ集めたアジア連合の誕生によって、科学の世界は間違いなく豊かになるものと期待されます。